
中二病

加羅加羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中二病

【Nコード】

N3967J

【作者名】

加羅加羅

【あらすじ】

未定

十文字以上？はっ、書く者が無い・・・

始まり

明くる日の昼下がり

皆が、下校するのに合わせ下校する目立つても埋もれるでもない意識の縁に存在を確認することが出来るが

決して深く考えることも、興味を持つようなこともないような存在それが、俺の立ち位置のはず・・・だった

「よっ、なにやってんだっ!？」

「いたっ」

ぱしっ　　といい音を立てて俺の背中を叩いた

「・・・何しているかと聞かれたら、見ての通り下校してる

それよりもだ・・・背中を叩くな、そして、足音を消して近寄るなっ」と、まくし立てるように語調を荒げて彼に答えた

「なんだ、無愛想だな

もうちょつと愛想良くせんと、人に嫌われるぞ？」

珍しく彼の彼には不審な表情をたたえてそう言った

「ああ、それならどうでもいい

愛想だなんだと、うわべの取り繕いなどどうだっていい必要なのは、俺が俺であるかどうかだ」

「うげえ、なんか格好いいこと言ってるぽいけど実際そうでもないな、自分が自分であるかなんて

人によって変わることのない頑固で偏屈なだけの人種だろ？」

「ああ、そういうふうにも捕らえられるか・・・

いや、俺が言いたいことはそう言う事じゃない

ようは、俺は他人にこびへつらうのが大嫌いなだけだ」

「うーん、そうかそれはまあ

そうかもな、悪いとは言わないがいいことでもないだろう

なんたつて、他者との緩衝材の役割を果たす愛想が無いんだから」

「そんなことは、知ってるよ」

だから、俺は、お前に見つけられるまで

人目に付かないようにしてたんだろぅがっ」

「はっはっはっ、それは、すまないな」

「知ってたか、実はすみませんって、謝罪の言葉じゃないんだぜ？」

「ああ、確か昔は単純に声をかけるときにだけ使われてた

もしも似的なものだっけかな？」

今は、謝罪の意も含むようになったが」

「知ってて使ったのかっ！」

と、突っ込もうと思っていたのに

そこまで知ってたのか、ならもう言うことは無いよ」

「そうか、会話を終わらせる目的で

話しのレールを、この先危険！に誘導して

崖下までのチキンレースを開催したのは……一体何故かな？」

「会話を終わらせる目的だが……」

じーと眼をつけられる

「はぁー、解ってるよ」

何故、会話を終わらせようとしたか？

だろう、答えは単純にして明快、実にシンプルだ

俺は早く家に帰り、本の続きを読みたいからだ」

始まりには

「本ねー・・・んな面白い物なのか？」

「ん？まあ、人によるだろ

何が面白いのかなんてそいつにしか解らないんだから

あれだよ、人の痛みは理解することは出来ても

決して、そいつと全く同じ痛みなんてそいつ以外には解らないんだから」

「・・・いや、ほらベクトルは同じだろ？

痛みなら、同じ痛みだし、喜びなら、同じ喜びのはずじゃないのか？」

「んー、そう言う考え方もあるが

では、お前は痛みが快楽になる奴と同じ痛みがわかるのか？」

「む・・・解らない、な・・・」

「だろう？人によっては

悲しみや、苦しみさえ、喜びになるような奴だっているんだから」

「まあ、それもそうか

だが、だとしたら大ヒット作品とかどうなるんだ？

同じ感覚を、もっていなくても世界中で大ヒットしている作品もあるじゃないか？」

「あー、なんか勘違いさせちまったみたいだな

別に、俺は一人一人が全く違う感性だと言っている訳じゃない

大体の人間は余り感性に違いはないんだろう

だが、俺は大体の人間と感性が違うことを理解している

だから、本が面白いかと聞かれても

答えることが出来ない」

「くつく、結論は無しか・・・

お前らしいな、お前との会話は常に破綻している
始まりも終わりも見えない

最初からあるようでもあり常に終わっているようでもある
ありとてなきとて同じ事なのかもしれない

言葉に刺はない、花もない、何も無い

一体、全体、お前の周りの世界はどうなっているのか？」

随分と急な展開に多少戸惑った顔を見せながら

「・・・今お前が、言っただじゃないか

俺の関わる物語は、常に破綻しているよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3967j/>

中二病

2011年1月16日06時44分発行